

創造性

滝口俊子

子ども達との親離れ・子離れのプロセスが始まっているせいか、子ども達の幼い日々の事があれこれ思い出されることの多いこの頃。子ども同じような思いなのか、次女が最近、英作文の時間に書いたという「忘れられない経験」という文を見せてくれました。それは毎年夏休みに行っていた我家の『子どもの日』の思い出でした。

次女が幼稚園の頃、すでに私は大学の仕事など毎日の勤務に出ていましたので、夏休みだけは何とか子どもとの生活を第一にしたいと、完全に休みを取るようになっていました。お休みの取りにくい小児科医の姉の二人の子どもも預かって、年子のように年の近い五人の子どもとの生活。それは賑やかでした。

今、思い出すと「楽しかった」としみじみ思いますが、夏の暑い盛り、子どものかん高

い声の中で、掃除・洗濯・食事の世話と追いまくられて過ごすことは、気の休まる暇がなく、大人の職場にいる主人や姉たちが恨めしくも感じたものでした。

そんな私の気持ちを察してかどうか、ある日、子ども達から「ごはんも全部自分達でする『子どもの日』を作って」という申し出がありました。勿論、私は大賛成！一番下の息子はまだ二歳。最年長の姪もまだ小学校二年生でしたので、そんな事を子ども達が考えたという事に、とても感激しました。私の賛成に喜んだ子ども達は、早速頭を集めて相談を始めました。

やがて、子ども達はやって来て「あしたの朝はドアをたたくまで起きて来ないで」と言います。私は約束しました。子ども達は顔を見合せて嬉しそうでした。

そして翌朝。早くから子ども達のひそひそ声や、台所でカタカタと何かしている音が聞こえてきます。

やがてトントンとノック。ドアをあけると、五人の子ども達は一斉に「おはようございます！」そして深々と最敬礼。「お客さま、朝食の支度が出来ています！」

居間のおぜんの上には、ごはんと味噌汁と焼き海苔とゆで卵と、そして干物まで並んでいます。

さらに私がびっくりしたのは、その狭い居間に「おおひろま」と書かれた紙が張られていました。隣の部屋は「つばきの間」、台所には「かんけいしゅいがいたちいきんし」、廊下の張り紙には「だいいくじょうはこちら」と矢印が付いていました。

その一日、私は子ども達の大旅館のお客様として過ごしました。私がとても楽しかったので、子ども達も生き生きと嬉しそうでした。

全く子ども達の自由に任せる『子どもの日』はその後も我家の夏休みの年中行事になりました。ある年は、大型冷蔵庫の空箱をお店から貰ってきて、ベランダで家作り。ある年は、お握り作りから子ども達だけでして、ハイキングへ。目的地に着いてお弁当を開いた時には、お握りの形をしていなかったという話は、もう何年もたっている今も、子ども達は思い出しては笑います。

幼い日々の子どもの達は、なんと創造的に遊ぶものかと感心してしまいます。

やがて子ども達も大きくなり、遊び方も変わってきました。そして、私は静かな自分の時間を持つ幸せを手に入れる事が出来たのですが、それと引き換えに無くなってしまった子ども達の活気は、今になるとたいそう恋しく感じられてなりません。

一時たりともじっとしてはいられない程、心も体もびんびんとしている幼い日々の子どもの姿を、ある本を読んだ時にも、とても懐かしくいとおしく思い出しました。

それは、広中平祐先生の「創造力をはぐくむ」という小さな本でした。

先生は、創造性が伸びる三つのタイプとして、次のような事を言っておられます。大学の教育の過程において大学の教育を受け入れる『学びの時代』から、自分独自の創造性によって『研究する時代』への転換の時期があって、その転換点をうまく通過していく学生の共通の特徴として、

まず「何を見ても〃これはすごい」とか〃これは面白い」と驚く人」

第二に「何を見ても〃それは何故だろう」と不思議がる気持ちを持つ人」

第三に「〃これは素晴らしい」と感心する人」

先生の挙げていらっしゃる、この三つの特徴を持っていない大学生は沢山います。でも、この特徴を持っていない幼児は、本当に少ないのではないかと思うのです。

誰もが持って生まれたこれらの本性を、家庭とか集団保育における大人の側の余計な手の掛けすぎによってだめになっている要素がかなりあるのではないのでしょうか。

だから子どもは放っておいた方が良く、とは決して思っていないのは勿論です。

文化を伝達する事の大切さを踏まえた上で、もっともっと子どもの持っている力を信じて良いのではないかと最近しみじみと考えるようになりました。

幼稚園の子ども達を観察している折りや、臨床の場で出会う子ども達の言動を見守っている時、子どもの姿をとて「面白く」「不思議に」感じ「素晴らしい」と思います。子どもという存在は、私たち大人に、忘れてしまっている「創造性」を引き戻してくれる存在でもあるようです。

(立教女学院短期大学)

引用図書

「二十一世紀への教育論 創造力をはぐくむ」 広中平祐 横浜ベースデザインアカデミー